

## 全体会午後の部Ⅰ

**司会者(ao, ag)** それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部Ⅰを行いたいと思います。

午後の部Ⅰの司会を担当させていただきます八万中学校3年 ao、瀬戸中学校3年 ag です。よろしくお願いします。



午後の部は前半のⅠと後半のⅡの2部構成になっています。最初に意見発表を3本していただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合いたいと思いますので、皆さんどうぞ協力よろしくお願いします。

まずは後半1本めの意見発表です。松茂中学校1年 bh さん「助け合う世の中へ」です。よろしくお願いします。

### 「助け合う世の中へ」

松茂中学校1年 bh

私は、小学校4年生のときに起立性調節障害、過敏性難聴などになりました。起立性調節障害とは、朝起きることができず、血圧が下がってしまい、めまいがして、時には倒れてしまうこともあります。過敏性難聴は、ふつうの人よりも音が大きく聞こえて頭痛などが起こります。その中でも特に苦手な音があったりします。私の場合、トイレを流す音、ゲームセンターのがやがやした音など。でも特に私が苦痛なのは、人ごみの中です。たくさんの人の声が全部同時に耳に入ってきて、会話をすることも困難です。

耳栓やイヤーマフをすることで、やっと外に出ることができるのが現状です。

私の小学校は、幸いにも少人数で、先生も友達も私の持病のことを理解してくれていました。そのため、耳の調子が悪かったり、めまいがして休んでも心配してくれたりして、学校を休みやすかったです。でも、ネットで私はある投稿を見ました。その内容は、「起立性調節障害は甘え」「ズル休み」「夜は起きていられるのに朝起きられないのは夜ふかしと同じ」などでした。私はこの投稿を見て、心にぽっかり穴が空いたような気分でした。自分は学校に行きたくても行けなくて、めまいで立つこともできなくてつらいのに、「ズル休み」なんて思われていたのかと思い、すごくショックで悲しくて苦しかったです。今、私は、起立性調節障害の症状がでることも少なくはなっていて、過敏性難聴も耳栓はしていますが、前よりはましになってきています。



私は、この体験をして考えたことは、やっぱりできるだけ多くの人に起立性調節障害や過敏性難聴を知ってもらいたいことだと思いました。病気の症状をよく理解していない人が、きっとあのような投稿をしているのだと思います。実際に起立性調節障害や過敏性難聴を知らない人はたくさんいると思います。目に見える病気ではないので気づかれることも少ないです。でも、今はヘルプマークというものがあります。目に見えない病気の症状などを書いて、カバンなどにつけて周りの人に知らせることができるものです。他にもネットなどでも症状や病気のこと

を広めることはできます。今の時代だからできることがたくさんあると思います。でも、使い方を間違えると怖いのも、ネットの特徴です。そして私は、多くの人が病気などを持つ人を助け合うような世の中になってほしいです。

ご清聴ありがとうございました。

**司会者(ag)** ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、後半2本めの意見発表です。松茂中学校3年 ay さん「人権こども塾から学んだこと」です。よろしくお願いします。

### 「人権こども塾から学んだこと」

松茂中学校3年 ay

私は、2年生の時から、「人権こども塾」に参加しています。「人権こども塾」では、いろいろな話を聞き、自分の意見を発表します。私が今まで聞いた中で、一番心に残っているのは、「狭山事件」の話です。「狭山事件」とは、埼玉県で女子高校生が誘拐され、遺体が発見された事件です。警察はこの事件で「石川一雄さん」という男性を別件で逮捕し、嘘の自白を強要していきました。事件の時、本当の犯人は、1枚の脅迫状を残していました。しかし、脅迫状に書かれていた文字と、石川さんの文字は明らかに違っていました。石川さんは、子どもの頃、ほとんど学校に通うことができていません。しかし、脅迫状には難しい漢字がたくさん使われていて、一目見ただけでも石川さんに書くことができなかつたことが分かったはずです。それに脅迫状からは、石川さんの指紋は出ていません。それなら、なぜ石川さんが犯人にされたのでしょうか。

理由は二つあります。一つめは、被害者の女子高校生が持っていた万年筆と同じものが石川さんの家から見つかったことです。しかし、その万年筆は、2回の家宅捜索では見つからず、3回めの家宅捜索でやっと見つかったという不自然なものでした。そして、その万年筆からは、

石川さんの指紋も被害者の指紋も見つかっていません。しかも、万年筆のインクの色も、被害者の使っていた万年筆のインクの色と違っていました。このような事実を学んでいく中で、石川さんが犯人とされたことは、絶対に有り得ないことだと思いました。



二つめは、この事件の背景に部落差別があったことです。石川さんの周辺に暮らす人々や、警察・検察が被差別部落の出身の人々を差別し、「犯人視」した結果、事件に全く関係のない被差別部落出身の石川さんを犯人にしてしまう冤罪が生まれたことです。石川さんは、そんな厳しい部落差別に抗い、60年以上も「冤罪」と闘い続けています。私は、「人権こども塾」で部落差別について深く学ぶまでは、ずっと「ひとごと」で、自分には関係ない遠い存在でしたが、「人権こども塾」での学びから、私の「人権意識」は大きく変わっていきました。石川さんは「狭山事件」によって生まれた「狭山差別事件」と闘い続けています。

私は、この「狭山差別事件」の真実をたくさんの人に知ってもらい、「部落差別の現実」について考えてもらいたいと思っています。もう一つ、今回の人権作文で訴えたいことがあります。それは、昨年度、松茂中学校で実施した「校内人権に関する意見発表会」で一緒に発表した ci さんの人権作文「僕の夢」から学んだことです。ci さんは、差別のない社会をつくるという自分の夢と、自分自身の個性について発表してくれました。また、その人権作文に込めた思いを ci さんは、昨年11月5日、文化の森二十一

世紀館イベントホールで開催された「人権こども塾文化祭2023」の舞台においても語ってくれました。

人には、様々な個性があります。好きなことや苦手なこともみんな違います。私は、人がたくさんいるところに行くことは苦手なので、休み時間は、2、3人で過ごすことが多いです。それにマイペースなので、人に合わせることも苦手です。家族は、「全員と友達になる必要はないから、自分のペースでまわりについて行けたらいいよ」と言ってくれます。私はその言葉を聞いて、自分の個性を認めてくれる家族がいてくれて本当によかったと思いました。だから私も家族の個性を認めて、これからも仲良く過ごしていきたいです。私は家族と話す時間が好きなので、これからいろいろな話をしようと思います。そして、家族が困っていたり、悩んでいたりはした時は、私が相談にのってあげられる存在になっていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

**司会者 (ao)** ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、後半3本めの意見発表です。瀬戸中学校3年afさん「無意識のうちに」です。よろしくお願いします。

### 「無意識のうちに」

#### 瀬戸中学校3年 af

私は、これまで「障がい」がある人に対してではなく、「障がい」がある人をお手伝いしたり、支えたりしている人に対して、なぜか苦手意識がありました。でも、理由はわからず、誰かに相談しようと思っても上手く言葉にできず、ずっとモヤモヤした気持ちで過ごしていました。その人たちは、必要なサポートをしていて、思いやりのある優しい人ばかりだということには分かっているはずなのに苦手だと感じている自分がいました。私が、「障がい」がある人について初めて学習したのは小学3年生の時で

す。班で学習したことを発表することになり、ある班が、クイズ形式で発表をしました。

問題の1つに、「障がいがある人をいじめてはいけない。マルかバツか。」というものでした。その時、私は何か違和感を感じ、胸の奥がぞわっとしました。しかし、周りのクラスメイトは何事もないかのようにその問いに答えていました。私は、その時も私の思いを伝え、説明しようしましたが、上手く言葉にすることはできませんでした。



それから、私は自分のことを【偏見をもっている人間なのかもしれない、いじめをしている人と同じなのかもしれない】など、いろいろなことを考えました。中学2年のときに、車椅子テニス選手の岡部裕子さんの講演を聴く機会がありました。その時、私がずっと悩んでいたことの答えがやっと出た気がしました。それは、「みんな同じ人間」ということです。岡部さんのお話では、岡部さんは生活の中で、ほとんどのことを一人でできること、他の国と日本の「障がい」がある人への対応の違いなどを聞きました。

その中で特に心に残ったのは、「お手伝い等の声かけは助かるけれど、一人で大丈夫な時もあるから、大丈夫ですと言われたら本当に大丈夫だと思っていい。」というお話と、「苦勞してそう、可哀想、と思う人もいるかもしれないけれど、ほとんど偏見で、私はそんなことはないし、皆と同じように生きている。」というお話でした。「障がい」がある人も私たちも同じで、困っている人がいたら助け、大丈夫そうならな

にもしない、私たちと同じ対応でいいのだと岡部さんの話を聞いて気づきました。

小学生の時の自分が違和感をもって「障がいがある人をいじめてはいけない」という言葉についても、「障がいの有無に関係なく、いじめはしてはならない、そもそもいじめはあってはいけない」ということが言いたかったのだと分かりました。小学校高学年のときは「障がいがある人が不自由なく暮らせる世の中」というより、「障がいの有無ではなく、すべての人が平等に不自由なく暮らせる世の中にしたい」ということが言いたかったのだと思います。「障がいがある」というだけで、健常者と区別して扱うこと、決めつけて考えてしまうことが、差別につながってしまうのではないかと私は言葉にしたかったのです。それを、岡部さんが気づかせてくださいました。皆さんの中には、「自分は偏見などなく、差別をしたことがない」という人がほとんどだと思います。

でも、気づかないところで、誰かの心にはナイフのように刺さっているかもしれません。もしかしたら、私自身も無意識に差別をしてしまっているかもしれないのです。私は、岡部さんから学んだことをもっと広げていきたいと思いました。いじめや差別は本人に悪意があるものだけではなく、無意識に人を傷つけている可能性があるということです。それらは、もしかすると、悪意がある場合と同じくらいたちが悪いものなのかもしれません。

それにこれは「障がい」に関する問題に限った話ではないと思うのです。部落差別や男女差別、他にも身近な嫌がらせなど、全て「無意識のうちに」やっつけてしまっている可能性があります。無意識はすごく怖いことだと思います。だからこそ、私たちは、日頃の言葉遣いや行動をより注意深く意識したり、ちょっと立ち止まり、今の自分と向き合いながら生きていく必要があると思います。そんな考えや生き方を広めていき、本当にすべての人が理解し合い、支え合えるような社会にしていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

**司会者 (ao)** ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者の皆さんの思いを語っていただければと思います。

マイク係として、松茂中学校1年 **bo** さん、松茂中学校3年 **az** さんの2人がフロアをまわります。

なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。

**松茂中3年学校 (bb)** 先程、「障がい」とか差別とかのテーマが多かったのですが、ボクは、なぜ人が「障がい」を差別するのかを考えましたけど、ボクの考えなんですけど、「障がい」をその人の個性だと思っていないからだとボクは思います。「障がい」っていい意味でも悪い意味でもボクの考えでは個性だと思うし、ボクも「障がい」者に対しての偏見が心の中では少しあると思います。それもあって、差別を意識しないっていうのは難しいと思うんで、ボクは、「障がい」のいろんな差別をなくすには、言葉だと思うんですね。たくさんの人に対して、感謝の言葉とか、「ありがとう」とか「すごいね」とかいう意味の言葉をたくさん言う方が、差別しないって意識するより簡単だと思うので、これを続けた方がいいと思います。ここまでボクの話聞いてくれてありがとうございます。





**松茂中学校 1年 (bm)** いろいろ「障がい」とか差別の話聞いて、私、生まれつき喘息持ちなんですけど、小学校の3,4年生で止まって、生きてきた中で一番辛かったのが4歳くらいの頃で、めっちゃ咳が出て倒れそうになった時もあったり、辛かったんですけど、幼稚園のみんなとか先生とか小学校のみんなは、ちゃんとわかってくれました。

でも、中学生になってから、わかってくれる人がだんだん少なくなって、それでなんか、バカにされたりすることもありました。それは私もよくないなって思います。今は喘息も治って元気に過ごしているんですけど、「障がい」とかで差別とかしたらいけないなと思いました。



**瀬戸中学校 1年 (am)** 先ほど、瀬戸中学校3年のafさんの語った文章の中で「無意識」という言葉がよく出ていたと思うんですけど、「無意識」って怖いなって思うんですよ。なぜなら、普段から「差別はいけないよ」って言っている人でも、ふと、ちょっと差別み

たいな言葉をしてしまうこともあるし、ホンマに「無意識」って知らない間に言っているから、わからないんです。だから、文章の中にあっただよように、ちょっと立ち止まって自分の言った言葉を、時間はかかるかもしれないけど、ちょっと立ち止まって考えたら、ちょっとでも減るんじゃないかなと思いました。

**瀬戸中学校 3年 (af)** 発表の中で、「インターネット」という単語が出てきたんですけど、私自身それも怖いことのひとつだなと思って。実際には、あれってその人の裏面とかやっている人が多い気がして。だから、言われるだけじゃなく、そういう所にも理解を上げていく必要があるなあとと思いました。



**松茂中学校 3年 (av)** 「障がい」の話が作文でたくさん出たと思うんですけど、ボクも小さい頃から中耳炎っていう「障がい」を持っていて、耳に水が入ったりしたら抜けにくくなるとか、気持ち悪くなる症状なんですけど、ボクが中耳炎嫌だなって思ったことは、海とかプールとか行きにくいことが、中耳炎で一番嫌なことです。小学校の頃、プールにも耳に水が入ったらダメなので、耳栓とかバンダナを巻いてやっていたんですけど、やっぱり人の目とかが気になったりして、やっぱり、ちょっと今日の水泳嫌だとかがあったんですけど、ボクの小学校のみんなはボクの中耳炎のことをわかってて、別に何も笑ったりバカにしたりとかせずに普通に接してくれて、

それでボクも水泳に前向きになれたし、今日も頑張ろうかという気持ちになりました。「障がい」というのは、知らなかったら相手も理解できないし、知ることたくさんその人と交流ができると思うので、「障がい」をもっている人を、やっぱり知って、その症状がどんなのかを知ること、「障がい」をもっている相手の生活がもっと楽になると思うので、「障がい」を知ることが差別を解決するのに重要なことだと思いました。



**松茂中学校 3年 (bc)** 「無意識のうちに」という題で、afさんが発表してくれたけど、ボクもあんまりこの場で言うのはよろしくはないと思うけど、一時期、いじめをしちゃって、いじめられたこともあって。松中生の今年の1年は俺の話を知らんとと思うけど、2年生はたぶん聞いてくれたと思うけど、俺1回いじめられて、いじめをして、両方したことある人があまりおらんとと思うんで、いじめをしたボクの気持ちっていうのが、されている側が父さんや母さんに言おうとしても、なかなか切り出せなくて、友達に言おうとしても言えなくて、マジでほぼほぼ孤独みたいな感じで、とともしんどい状況で。いじめられたら、逆にいじめをした側は何も気にしてなくて、ほんまに、こいつなんかどうでもいいやんみたいな気持ちになって、しているっていう感じかな。ボクは両方経験したけど、実際、いじめをするのもいじめられるのも、両方ボクは嫌なので、両方して思ったことは、されてる側がとともしんどくて、孤独って

う感じがして、やっている側は何も考えずにやっている感じで、かつほぼほぼ無意識のうちにやっている感じがするので、両方を受けたりやってきたボクの感想は、両方あかんって思っただけ。いじめをしている人は、無意識のうちにやっているのが多分気づいてないと思うんですけど、ほぼほぼの人がいじめをしてないという感覚でも、相手はいじめをされているっていう感覚になるので、なるべく言葉づかいとかそういうのには、ボクが言えたことではないですが、気を付けた方がいいなと思いました。



**松茂中学校 3年 (ba)** さっき、bbさんが言っていた「障がいっていうのが個性」というのをボクも普通にそうだと思って、人と違うところを持っているのはすごくいいことだと思いました。あの…ボク、「障がい」者が身近にいるんでわかるんですけど、「障がい」のある人って純粋なんですよね。悲しい時は全力でワアワア泣いて、うれしい時はすごくうれしそうに笑ったりして。「障がい」と「障がい」のない自分たちも同じ人間で、「障がい」があるからと線を引くっていうのもどうかと思うし、あの…なんて言うんだろう。たまに一緒に出かけていてジロジロ見られたりして周りの目が気になるんですけど、今は気にしないんですけど、みんなにジロジロ見られたりして気にはなっていました。支援学校とか、そんなところにも行ったりして、とても楽しかったのを覚えています。だから

ボクが思うのは、「障がい」者だからって特別扱いしてくれるのは、まあ、いいんですけど、できれば普通に友達と話しているような感覚で話してきて欲しいなと思いました。



**松茂中学校3年(ay)** 私はもう引退したんですけど、部活をしていた時に3年生全員で片付けしてて、その集まった時に、「今年の1年生ちょっと偉そうよな」とか言ってる人がいて、私はそんなこと全然思ってたんですけど、みんながそうよなとか言ってくるけん、ちょっと合わせてしまっていたところがありました。私は、部活をしていた3年生とは全員小学校が違っていたので、あまり仲良くなかったけど、ご飯食べに誘ってくれた時とか、一緒に練習しようって言ってくれた時には、なるべく行くようにしてたんで、今はそんなに話さんようにはなかったけど、ちょっと仲良くなっていたので、みんなが悪口とか言っていて、自分はちょっと悲しかったです。

2年生とか1年生とかは、結構3年生のことを慕ってくれていた人もいたと思うのに、先輩がちょっと間違っただけを言っているの



は、ちょっと違うし、自分は注意できなかったのでもっと後悔しています。自分の仲のいい人が傷つけられるのはみんな嫌だと思うけど、そういう時こそ自分の意見を言うべきだと思いました。

**鳴門渦潮高校1年(cj)** 「障がい」と病気で、ボクはインターネットの友達がいるんですよ。前半の午前の部で言っていたことと異なっていて、ちょっと違った子なんですけど、そういうちょっとした気持ちの高ぶりというか、感情を抑えられない人っているじゃないですか。そういうのがボクにも一時期あったんですよ。小学校の時に、自分では言われたことに対しカッとなったものが爆発的に一気に飛び出す的な。あるじゃないですか。そういう感じのものがボクの中にもあって、そういう子が、ボクのインターネットの友達にもいて。ボクは、支援学校というより学校内の支援学級っていうのがあって、そっちの方に行っていたんですけど、そのインターネットの友達は高校3年生くらいなんですけど、その子が今でも心の感情が高校生っていう年になっても無理っていうことで、支援学校に入っていたんです。でもボクはここ最近そのことを電話越しに聞いて、その時にまあ言えばアドバイスとか、この時にどうしたらいいとか話していたんですよ。

ボクは今は少し落ち着いているんですけど、こういう性格で、昔の俺は、いきなり物事をバツと出された時に一斉に片づけられるっていう人じゃなかったんです。今も片づけられない。物事をバツと出された時に、一つずつやっていくってなったらスピードが遅くなっていくじゃないですか。いきなりバツと言われたことが、こっちからしたら、言われたことに対し解釈が違っていたり、いろいろあったんです。そのことによって「障がい」なのか病気なのかと、自分の中にも病気と「障がい」の違いが分からなかったんです。

そのインターネットでの友達に聞いたら、

病気でもあるし「障がい」でもあるしって言うんですけど、やっぱり、根本的な理由として病気に該当するとも言われました。ボク的には、そういう子でも支援学級とかに入って、そういう心の落ち着きとかしたところがあって、その子曰く、支援学級に入って、もうそういうことは少しはあるんだけど、そういう学級とかに入って落ち着きを取り戻したとは言っていたんです。



今回の話を聞いて、心の余裕がないとか、そういうことの表れが出てきたり、そういう時のネガティブ感情って言った方がいいですか。そういう時があったりして、自分に何もできないんだとか、そういう言い方をしているっていう感じが自分的には何とも言えなくて、何て言うんでしょう。ネガティブな感情を持つことはダメだとは言わないですけど、そのネガティブな感情をお父さんやお母さんに話せないとか、いじめられてても話せないとか、そういうことを心の底では話したいじゃないですか。自分のよりどころに寄り添ってくれる人が欲しくて、心のどこかに自分は言いたいけど、「ううん」となって、喉まで出かけて止まってしまって、言えないっていうこともあるんですよ。ボクもどちらかというといじめられた側なので、よくわかるんです。だから、何て言うんでしょう。そういう子たちが、今回の人権で語り合ってくれたらボク的にはいいと思います。もっと話してください。お願いします。

**瀬戸中学校 3年 (af)** さっき、1人めの bh さんについて言ったんですけど、次に言いたいの、2人めの sy さんのもので、人間って大人になるにつれて自分の意識とかが深まってくものだと思っていて、今、人権の学習とかをすごい小学校とか中学校とかでやるんですけど、大人になってもいるんじゃないかなというのを思っていて、それが、この作文を聞いていてすごく思いました。

それに、勉強とかと同じで、学んだとしてもいつかは忘れてしまったり、人間にむかつかとかすると思うので、こういう場だったりみたいな大人の人も人権の学習を共にできるようなことがもっと増えると、理解がもっと広がって、この作文のようなことも減るんじゃないかなと思いました。先輩の新聞に載っていたところ見てっていう所も、そこから、すごい話が広がっていったりするし、そこから見えてくるものもあってくると思えました。



**瀬戸中学校 2年 (ak)** ボクは、af さんの発表を聞いて、ボクも瀬戸中学校で車いすの人が話に来てくれたんですけど、その人が、さっきからみんな「障がい」者とか言っているけど、「障がい」者って言われてうれしいのかなあみたいにして。昔は外国人を「外人」って言ってたんですけど、今はダメみたいになって。「あの子は障がい者」だなあとか言われたら、「何で名前と呼ばんのかな」と思うんですよ。ボクは。名前があるのに、何で「障がい」者とか。「障がい」とか個性を持

っているだけで名前と呼ばれんと、「障がい」者って呼ばれるのかなって。それで、今回来れなかったボクと同級生が、「普通ってという言葉いらんよね」っていう話を前にしていたんですけど、それを言ったら、「障がい」者ってという言葉があるのかなって思って、「障がい」者って、「障がい」や個性を持つとるすごいとボクは思うんですよ。それで「障がい」者って特定されて、いろんな個性を持っている人が悪く言われるみたいな感じのことを言われるんで、ほんまに、それっているのかなと思いました。

**瀬戸中学校 2年 (aj)** afさんの作文に「無意識」っていう言葉が出てきて、やっぱり他人と会話していたら無意識のうちに相手を傷つけてしまっていたり、相手が嫌がる言葉を書いてしまっていて、あとあと考えたら、これも相手が傷ついていたんじゃないかなって思っていて、自分だったらこう言われたらこう思うなって思うんですけど。やっぱり会話をしていたら、やっぱり会話が弾んでいたらそういうことを考える時間がなくて、相手を傷つけてしまうから、話す時に、できるだけ自分と照らし合わせて、言葉を選んで会話をしていきたいと思いました。



**高瀬中学校 1年 (br)** さきほどから「無意識」

という言葉が出てきたんですが、いじめも差別も本当に無意識のうちにやってしまうことだと思います。いじめをしている加害者もそのことに気がついていなくて、ただ遊んでいるだけ。自分より弱い人で遊んでいるだけだと思っているんですよ。だから、ボクも多分いじめられたこともいじめたこともないと思うんですが、これからも無意識のうちにやっってしまうないように気をつけていきたいと思いました。



**板野中学校 3年 (ea)** ボクは偏見についてで、ボクには3歳下のきょうだいがいて、弟たちは生まれつき「アトピー性皮膚炎」っていう病気を持っていて、弟が小学校に入り出した頃、周りの理解がないのかわからないんですが、「その病気ってうつるとちゃうん。一生治らんとちゃうん」みたいな感じで、知識がないのに勝手にそんなことを言われると、弟も傷ついたりしますし、ボクも兄として傷つきますし。皮膚炎っていったら、やっぱり肌が赤く腫れたり、血が出たりして、それでやっぱり……見た感じ、やっぱり、「こいついけるんか」みたいな。また、最近弟が消毒をかけられたとか言っていて、なんか、本当にかわいそうだし、…ちょっと。理解がないと人を簡単に傷つけちゃうし、無知はどの時代でも怖いものだなと感じました。



**瀬戸中学校 1年(am)** 2回めになるのですが、みんなの発表とか意見とか聞いていた時に、頭の中でいじめといじりの差っていうのがちょっと浮かんだんです。結構最近になるんですけど、友人関係で結構悩んでしまったことがあって。その時に cq 先生が相談に乗ってくださったんですけど、その時、cq 先生が「普段言っている、言われているいじりでも、心が落ち込んでいたり傷ついている時に、いじりって、いじめになる」って言われたんですよ。確かに、自分は心が「はあ…」みたいな時に、いつも言われていることを言われたら、「はあ？」みたいな、いつも耐えているのに急に傷つくこともあるんです。結構感情でその言葉の…なんて言うんだらう。いつも言われている言葉でも腹が立ったりすることも結構あるんです。だから、……いじめがいじめになるっていうことを考えて、これから友達と話そうかなと思いました。



**八万中学校 3年(ap)** さっきの ea さんのお話で、「偏見」っていうのがあったと思うんで

すけど、「偏見」自体はそんなにめっちゃめっちゃ悪いことだとは思ってなくて、偏見を人に押し付けたりするのがダメなんじゃないかなと思っていて。例えば、理科とか実験する時に予測することがあるじゃないですか。「これはこうなるんじゃないかな」って。けど、それが絶対的に正しいわけじゃない。それはイメージだけで。偏見も、「こういう人だったらこういう感じだろう」っていうイメージだけだだと思うんですよ。



でも、そのイメージを人に言った時に、それは違うんじゃないかって。そのイメージが悪い方向のイメージだったりした時に、人を傷つけることとかあると思うんですね。それが差別だと思うんです。だから正しく知ることが必要だと思うし、それを「障がい」に置き換えるなら、「障がい」のことについてもちゃんと知るべきだし、でも、「障がい」者と一言に言っても、人によって感じ方とか症状とか、それは人それぞれだと思うので、その人に向き合っていけたらと思います。

**八万中学校 3年(ar)** 作文の中に「障がい」の話があったと思うんですけど、私には発達障がいのいところがあって、そのいところは、やっぱりいじめにあたりして、そのいじめは本当にひどくて、先生も助けてくれなかったらし

くて、大ごとになってしまったんですけど、人と違うだけで差別したりするのはよくないし。いじめた理由は、支援学級にいた。たったそれだけでいじめられていたそうです。いとは中学生だったので、周りの人たちも止めることができなくて、小学生のうちから人権学習をした方がいいと私は思いました。



**松茂中学校 3年 (bc)** 1回、全員に協力してほしいことがあるんですけど。ボクが「長女と長男」「次女と次男」「三女と三男」と言っていきますので、その人は手を挙げてください。「長女・長男」の人。結構おった。ありがとうございます。

それじゃあ、次に「次男・次女」の人、手を挙げてください。ありがとうございます。

次、「三男・三女以下」の人、手を挙げてください。おった。全員がきょうだい、おらん人もおるかもしれんけど、「きょうだいのおらん」っていう人、この中にいますか？おらんや。ありがとうございます。

きょうだいがおる人でもおらん人でも、家族の誰かが赤の他人にいじめられたりしたら、ちょっとは「うざいな」とか「何してきてんねん、うちの子に」って思ったり、絶対にしますよね。eaさんの弟が最近消毒をかけられたって話を聞いて、俺の弟も最近バカにされてるらしいんですけど、それがほんまに俺も許せんくて。弟や兄貴がどうだこうだ言われたらボクもいら立ちますし、絶対全員多分いら立つと思うんですけど、誰かを

バカにするような発言をしたら、逆に返って来るし。逆に褒めたり、悲しんでいる人がいたら励ましてあげたりっていう発言をしたら、多分、どこかで自分に返ってくると思うので、人をバカにするような発言をやめたら、多分この世から、いじめとかいじりっていうのはなくなるっていうのは無理かもしれんけど、減ると思うので、なるべくみんな人を励ますとか褒めるとか、そういう言葉かけをしてあげて欲しいです。



**松茂中学校 3年 (ay)** 私の家族についてちょっと話したいと思います。さっき、baさんが言ったけど、私も身近に「障がい」のある人がいます。私のおばあちゃんが言っていたけど、おばあちゃんの子どもが私のお母さんと、そのお姉さんで、私のお母さんのお姉さんにちょっと「障がい」があるけど、家族はみんなそのことを正しく理解して、話したりとかすることはできないけど、心の声を聞くことでその人が生きやすくなっているんだと、おばあちゃんが言っていました。だから、私はみんなの表情とか、声とかをしっかりと確認して人と話したりとかできたりしたらいいと思います。おばあちゃんは、若い時にすごい大変な思いをしたけど、今も、周りで「障がい」のある人が言われて傷つくこととかを言っている人とかがいたら、もうそんな人とは

縁を切るとか言っています。私は、それは正しいと思います。自分がされて嫌なことをすると、さっきも「自分に返って来る」と言っていたので、そのことをしっかり自分の心に止めておきたいと思います。



**徳島商業高校 1年 (cg)** 私は、小学校5年生と6年生でいじめを受けていました。その当時はすごく苦しかったんですけど、今となってはいじめられてよかったなって思うんですよ。その理由が、いじめられたから将来の夢ができたんですよ。私の夢は、ct先生とかcr先生とかみたいな中学校の先生になることなんです。中学校で、こういう人権の会とかしてみたいと思うんですけど、何でいじめられたのに学校に関わろうとしているのかっていうと、私みたいな思いをした人たちに寄り添いたいなっていうのがあって。

自分も受けたんですけど、その時に助けてくれた親友がいるんですけど、その子も中学校でいじめを受けて不登校になっちゃったんです。学校時代は離れていたんですけど、去年もこの集会に参加してくれた子だったらわかると思うんですけど、一緒に去年は2人で参加していたんですけど、その子はバレーボールをして、いじめられて学校に行きたいけど行けなかった。学校に行こうとして正門まで行くんですけど、足に力が入らなくて、教室まで行けないっていう現状があって、1年半くらいかな。不登校になっちゃったんです。私は当時学校が離れていたんでその実態を知らなくて、自分がいじめられた時は助けてくれ

たのに、その子がいじめられている時に助けられなくて、そのことを知ったのは自分と同じ学校に転校して来てからだったんです。そのことがとても悔しくて、自分は助けてもらったのに、何で助けられなかったんだろうってなっちゃって。それで教員になろうっていう夢ができたんです。いじめって本当にダメだと思ってんですけど、きっかけづくりにもなれるかもしれないし。そういう悔しい思いをして来たので、自分も将来はそういうことに繋げていきたいなって思います。



**瀬戸中学校 1年 (an)** いじめって絶対しちゃいけないって思うんですけど、「障がい」とかって、見ためでわかったら「障がい」ってわかりやすいですけど、病気とか、見ためで判断できないそんな病気とかで理解されにくい人たちが声を上げているのに、それを無視して、「それは甘えだ」とか、最初に言ってくれた「起立性調節障がい」とかも、一番わかりづらい。甘えだと言われても何も言い返せないような病気だと思うんですよ。そういう病気こそ理解しなければいけないし、絶対にいじめてはいけない。でも、それをいじめる人がいたり、理解できてない人がいるので、そういうことをもっとはっきりして行って、そういうことがなくなったらいいなと思います

した。



**鳴門渦潮高校 1年(ci)** 話せと言われて何を話そうかと思っているんですけど、「普通」っていうことを言っていたじゃないですか。普通の対義語って知っていますか？わかりませんか？わかるっていう人。手を挙げてください。はい。（「異常」）ですよ。あまり知られてないかもしれませんが、「普通」の対義語は「特別」なんです。ボクは、映像でも話したように吃音っていう、そんなに症状は重くないですけど、まあ、「障がい」者っていう部類には入っています。「障がい」者って、さっき言っていたように「異常」じゃないですか。普通とはかけ離れている存在じゃないですか。でも、普通の反対って「特別」なんです。ボクは特別な個性を持っていると解釈しているんです。「障がい」っていうのは。「障がい」って言われるのが嫌でという意見もありましたが、ボクは逆にうれしい。「障がい」者なんだろうって言われたら、「そうです。「障がい」者です。こんな障がいを持っていて、こんな症状が出るんだ」と言えるから。一つのコミュニケーションじゃないですか。話さなきゃその子のことはわからないし、話していく中でボクの個性のこととか相手の個性のこととかわかっていくと思うんです。まあ、今いろいろ発表してくれましたけど、その話は一人一人が自分の気持ちを語り、いろいろな人が多くの発表を聞いたと思うんで、その思いをもっといろいろな人と共有した方がいいなと思うんです。

次の休憩とか、ボクらの次に話す時とか、ボクはこう思っているというのに2つ付け加えて、「あなたはこう考えているの？」というふうに質問して、ちょっと考えてくれたらもっと深く知れるんじゃないかなと思いました。



**徳島科学学校学技術高校 2年(cf)** 語りたくってねえ、しょうがなかったんですよ。なぜってねえ、ボクがただ1年2年先に生まれただけみたいに見えてしまうくらいすごいですよ。こんなに上手に発表できるんでしょうか。先に発表してくれた人、私は思うんですよ。これは「障がい」って名前がついてるんですけど、「障がい」っていったら、病気に近い、まあ、起立性調節障がいだったり、似たようなこともあるんです。パニック障がいだったり、他人から見てすごくわかりづらい病気ってあるじゃないですか。もちろんボクもあるんですけど、当たり前だけど、それぞれ特有の悩みがあつてつらさがあるわけですよ。

起立性調節障がいなんて特にそうです。だって、朝布団の中から起きただけってとてつもなく厳しいんです。普通に朝起きれば生活が1カ月くらい続く。窓を開けるとしんどくなるんです。「朝日しんど」って。この怖さって、誰かが語らんとわからん。スマホでいくらでもググることはできるけど、ググって分かるのは訳の分からんくそ難しい日本語が、ちょっと子ども向けに変えてある難しい文章だけですよ。実体験が聞けるのが一番大事なことなんです。

ボクとしては、すごいここにいるみんなに感謝したい。いろんな体験を話してくれて、いろんな思いを教えてくれてありがとうございます。本当に。特に悩みも伝えてくれたからうれしかったな。ボクは話を聞きよって、スマホにメモをしたんですよ。これって大切なことなんで。



狭山事件のことを話をしてくれた人、あの差別は部落差別っていうことが基になって、おおもとになっている。無意識の差別っていうことを話してくれた彼も、「差別」っていうことに触れてくれた。起立性調節障がいのことを話してくれたのは、「何でお前学校に来んの」って言われるよ。やっぱりどこまでいっても、「何でお前朝起きれん。あれ別にいけるやん」って言われるんよ。言われたら、本人としたら、お前風呂で気絶したことないだろうって思うよ。思うけど、わからないからそんなこと。ボクのことなんか知ったことじゃないっていう人から言われることなんですよ。

ボクと仲良くしてくれてる人は、「ああ、また cf からだ弱いけん」そういうふうに言ってくれることもある。でも、やっぱりわからないって怖いんです。部落のこととか、無意識の差別もそうよ。自分が差別しているっていうことがわからないんだもの。でも、これって誰しも起こることなんです。病気であれ、無意識の差別であれ。誰しもがやってしまうことだと、ボクは思う。その上で、それをどうしたら減らしていくっていうか、改

善していくことができるんだらうなというところで、話してくれたのが無意識の差別のところだったと思います。

ここで、起立性調節障がいと狭山事件の共通点。これってお互いに尊重し合って、コミュニケーションを取り合って、理解してあげたら結構簡単にわかってあげられるんじゃない？狭山事件。部落のことを知ってるっていうか、その人自身を知ってるっていうか、そんなことをする人かと考えること。この人日本語を書くのが上手じゃないのに、漢字で書いとる。おかしくねえ？っていうのを気づけんのも、その人自体を見てないだけやん。理解し合うって、ここが大事なんです。それは無意識の差別も一緒。だって差別してしまうことはあるし。今、いじめの定義ってどんどん広がっているし。誰かが傷つくことを言ったらそれはいじめっていう言い方もあるんだけど、でもお互いにお互いのことを知っとかなあかん。どんだけ人間的に合わない人が言ったとしても、許したる。だけん、何が言いたいかっていうと、無意識の差別って、コミュニケーションがとれる仲だったら、嫌なことを言われて、「またそんなことを言って」と言える。そんな関係性を作っていくことが大切なんじゃないかなと思いました。ボクが一番感謝したいのは隣の ci くんです。

**森口** 松茂中学校の ay さんが、人権こども塾で「狭山事件」について学んでいることを語ってくれました。この人権を語り合う中学生交流集会は、29年前に、部落差別をなくしていく集会としてスタートしています。その原点に立ち返るような語りを届けてくれました。

中学3年の皆さんは、2学期社会科の公民的分野の学習で「免田事件」や「足利事件」などの「冤罪」についての学習をします。ayさんが語ってくれた「狭山事件」は、国家権力が部落差別を利用して、警察の大失態に対する世論を抑えようとした国家権力による部

落差別です。

高校1年の女子高生が、誘拐され、遺体が発見された「狭山事件」と、その犯人を挙げることができない警察・検察が、世論を押さえるために、部落差別を利用して被差別部落出身の石川一雄さんを犯人としてしまった「狭山差別事件」です。この「狭山事件」と「狭山差別事件」について、どうしてこのようなことが起こり、どうして今も誰もがおかしいと思っている問題が解決しないのかを考えてほしいと思っています。



権力は権力を守るために、とんでもないことを行い、弱い立場の人間をとことん差別してしまう残酷さを持っています。この事件は、ずさんな捜査態勢の中で、すぐそばにいた犯人を取り逃がし、被害者、高校1年の女生徒の遺体が発見されるという最悪の事態となる。この事件の1ヶ月前にあった誘拐殺人事件の犯人もまだ捕まっていない中で、警察や検察への非難が高まる。そんな最悪の状況の中で、重要参考人としてマークしていた人物が、農薬を飲んで命を絶ち、捜査が行き詰まる。この事件は国会でも問題となり、当時の池田勇人首相が、必ず犯人を逮捕すると答弁する事態になっていきます。

そのような状況で、国家公安委員長の「世論を押さえるためにも、生きた犯人を挙げろ」という大号令の中で、被差別部落への集中捜査が始まり、様々な証拠をねつ造し、巧妙な誘導の中で石川さんの自白を強要し、被差別部落出身の石川一雄さんを犯人とし、死刑判

決まで出した「狭山差別事件」という日本最大の部落差別事件です。

国家権力は、石川さんを犯人にするために、石川さんの家に、被害者の女性が使っていた万年筆を置いて、それを証拠としています。その万年筆には、石川さんの指紋もついていません。しかも、その万年筆に入っていたインクは、被害者が使っていた万年筆のインクと違うものでした。その万年筆は、石川さんのお宅の鴨居で見つっていますが、2回の家宅捜査では見つからず、3回めで家宅捜査で発見され、その万年筆を最初に触ったのが、警察官より、その万年筆を取ってくれと言われた石川さんのお兄さんでした。当時、周辺住民も、部落の人間が犯人に違いないという部落への差別意識がありました。

マスクも、この差別意識を支持するような報道をしています。人々の差別意識を利用し、石川さんを犯人に仕立てあげるといってもない差別事件が発生したんです。皆さんにしっかりと理解してもらいたいのは、高校1年生の女子高生が誘拐され、命が奪われた狭山事件と、その犯人を警察・検察が被差別部落に捜査を集中させ、被差別部落出身の石川一雄さんを犯人にしてしまった狭山差別事件、この二つの事件について、早く再審を行い、真実をあきらかにしてほしいと強く思っています。

日本は民主主義の国と言いながら、どうしてこんなことが起こるのか。石川さんが逮捕されて、もう61年です。61年間石川さんはこの差別とずっと闘い続けているんです。私たちは様々な人権問題に対して無関心であってはならないと思うんです。おかしいことをおかしいと言え。こんなおかしいことがあってはならない。しっかり学ぶことです。様々な人権課題を学び続けていく。様々な思いを知る。学ぶということは、みんなの人生を本当に豊かにします。

今日、パネリストを務めた高校生2人。これまでの人権学習の積み上げの中で、見事に

成長してきました。1回1回の語り合いの人権学習の積み上げの中で、生き生きと成長していく姿にいつも感動しています。そして、そんなリーダーに触発されて、どんどん手が挙がり、様々な思いが語られる、この空間に感動しています。

中学生集会がスタートして29年め、29年めの夏も「熱い」です。みんなの熱と光が、人権教育の喜びです。1996年8月7日木曜日、板野町ふれあいプラザにおいて、当時、板野中学校で同和教育を担当していた cr 先生を中心に、この会が立ち上げられ、そこに集った中学生の熱い語りが、この集会を、形を変えながら継続させてきました。この集会は、参加した中学生の「熱き思い」によって継続されてきた集会です。29年の歴史に思いを馳せながら、深い絆をつくっていきましょう。

**松茂中学校 1年 (bl)** 私が「障がい」者に見える人は手を挙げてください。手を挙げてください。見えませんよね。「障がい」っていうか病気っていうか、判断はつきにくいんですが、一応私は喘息持ちなんです。喘息って知っていますか？咳が出始めたら止まらなくて、呼吸困難になるレベルのあれです。今じゃあかなり治まってはきてるんですけど、今でもたまに咳が出たりとか、ちょっと咳をする真似をしたら、マジ止まらなくなったりとか、度々あるんですよ。

起立性調節障がいは今の私みたいに目に見えない「障がい」なんです。だから要は、「私は喘息持ちで苦しいので休みます」っていうのは、「障がい」だからしょうがないわって言われるのが妥当なのに、ネットとかで喘息のつらさとかわからない人とかは、「喘息ってシンプルに考えて、ただ咳が他人よりちょっと多く出るだけで、あまり苦しくなんか無いと思うんですよ」って。ただ咳で休むのはさぼりみたいなものじゃないかっていう人もいますので、やっぱり、見えない「障がい」を、「障がい」って認めてくれるにはやっぱりつ

らさを知るしかないなど、私は思いました。



**瀬戸中学校 3年 (sf)** 実行委員の ea さんとか cf 先輩とか、他の人たちも言っていたように、その人自身をわかるということがすごく大事なあって思ったっていうことと、意見で、たくさん「個性」とか「障がい」っていう言葉が出てきたと思うんで、ak さんと ci 先輩の思う考えは違うみたいな感じって思ってた。



私事にしまうんですけど、私が書いた人権作文が一番めが「障がいは個性なのか」っていう出だしなんです。そして、その作文の最終的な結論が、「障がいをもっている人がそれをどう受け止めているかっていうので全然違ってくる」っていうことが出たんです。この人は自分の「障がい」を個性だと思っても、でも、あの人は、これは個性ではないんだよって思っている人もいるっていう結論になったんです。だからこそ、その人自身をちゃんと見て理解するっていうことが大切になって来るんじゃないかと思いました。

**鳴門渦潮高校 1年(ci)** 時間も来ているんですけど、「個性」っていうのなのかっていうのを出してもらってありがとうございます。「障がい」者っていうのは、その人自身がその「障がい」によって、「これ困っているなあ」とか、「ちょっと生活しにくいなあ」と思ったら、当事者にとったらそれは「障がい」っていうふうになれるんですよ。でも、ボクは「障がい」で生きにくいなあと思うようになって、「障がい」に対する周りの反応で、「悔しいなあ」と思うことが多いなあって思います。現にボクも吃音っていう「障がい」があって、ボクが持っている「障がい」に対しての世間の反応で、ちょっと「ううん…」っていう反応があって。

コンビニに行ったんですよ。「からあげクン」を買いたいなと思って、「からあげクンをお願いします」って言おうとしたんですよ。「からあげクン」が言えないんですよ。吃音をもっている人にしかわからないと思うんですけど、あまり言いたくないんですけど、「からあげクン」が声に出てこないんですよ。「からあげクン」の「か」が。詰まっちゃって、なかなかうまく言えないんです。当時の店員さん、覚えています。「こいつ、なんだ」みたいな顔をされて、そういう社会の反応で悔しいなあとか思えることで、ボクなりに「障がい」って言っているんですけど、個性と捉えるか捉えないかはその人自身の受け方だと思うので、ボクはもっとこの吃音っていうのを皆さんに知ってほしいと思っています。

なので、個性っていうのを伝えて、皆さんに知らせるようにしているんですけど、個性っていうのは「障がい」だけじゃなくて、どんなことでも、例えば、中指と薬指とどちらが長いとか、皆さん一人一人違うものを持っていると思います。そういうものを全部ひっくるめて個性と言っているんで、いろんな考え方があっていいと思います。皆さん、もっともっと発表していきましょう。

**司会者(ag)** まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで午後の部Ⅰの話し合いを終了し、10分間の休憩を取りたいと思います。10分後には元の席に戻ってきてください。

